

<b>イチゴのアザミウマ類の薬剤感受性検定</b>	
担 当	資源循環研究室 発生予察グループ ○杉田麻衣子 ・溝部 信二
研究課題名 研究年度	農薬耐性菌・抵抗性害虫の診断技術の確立 令和4年

## 背 景

発生予察グループ（病虫害防除所）では、昭和54年から抵抗性害虫検定事業を計画的に継続実施しており、県内の抵抗性害虫の発生動向を把握し、農業関係者へ情報提供を行っている。近年、県内の一部地域ではイチゴにおけるアザミウマ類の発生が多い状況が続いており、営農を行う上での問題となっている。

## 目 的

山口県内のイチゴハウスで採集したイチゴの花とヒラズハナアザミウマをビニールパウチに封入して行う簡易検定方法で、各種登録薬剤に対する感受性の低下程度を把握し、防除指導対策に活用する。

## 成 果

- 1 試験を行った6種類の薬剤の中で、スピノエース顆粒水和剤、グレーシア乳剤に対する死虫率は高く、高い感受性が認められるが、モスピラン顆粒水溶剤の48時間後の死虫率は低く、感受性の低下が懸念される(図1、2)。
- 2 ヨーバルフロアブル、モベントフロアブルはいずれも遅効性の殺虫剤であることから、本検定方法では48時間以後の評価は判然としない(図1、2)。
- 3 ファインセーブフロアブルは、ヒラズハナアザミウマに対しての効果は低い傾向にある(図1、2)。

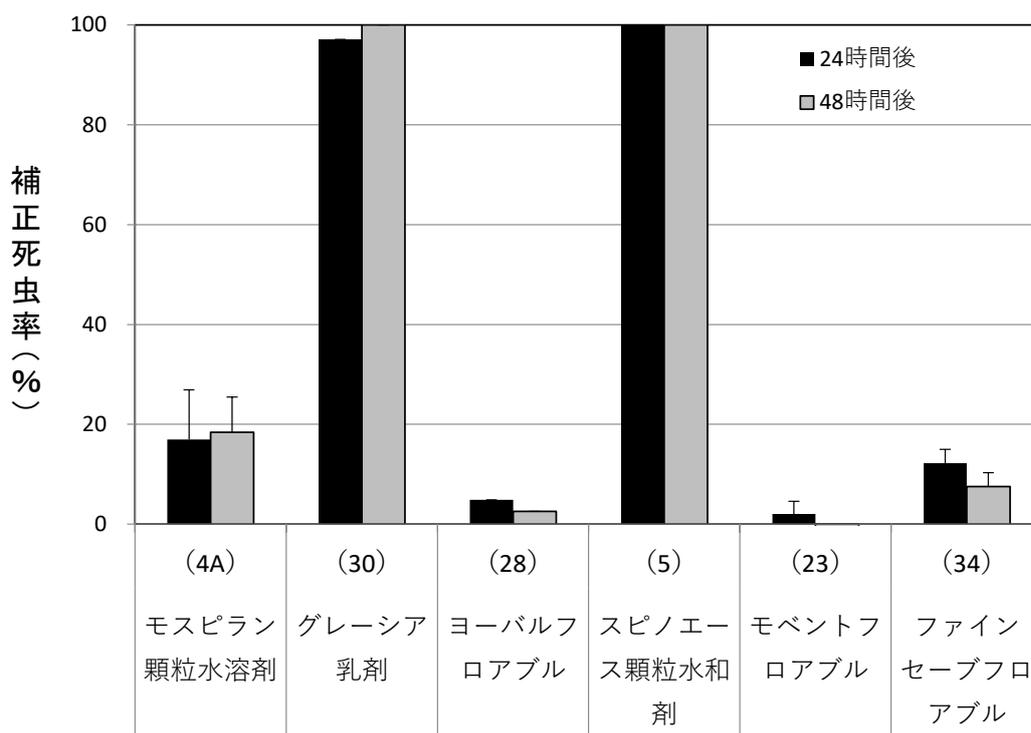


図 1 イチゴのヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定結果（H町）  
 注）括弧の中は IRAC コードを記載。IRAC コードとは殺虫剤を効き方ごとに分けた記号であり国際基準。以下同様。

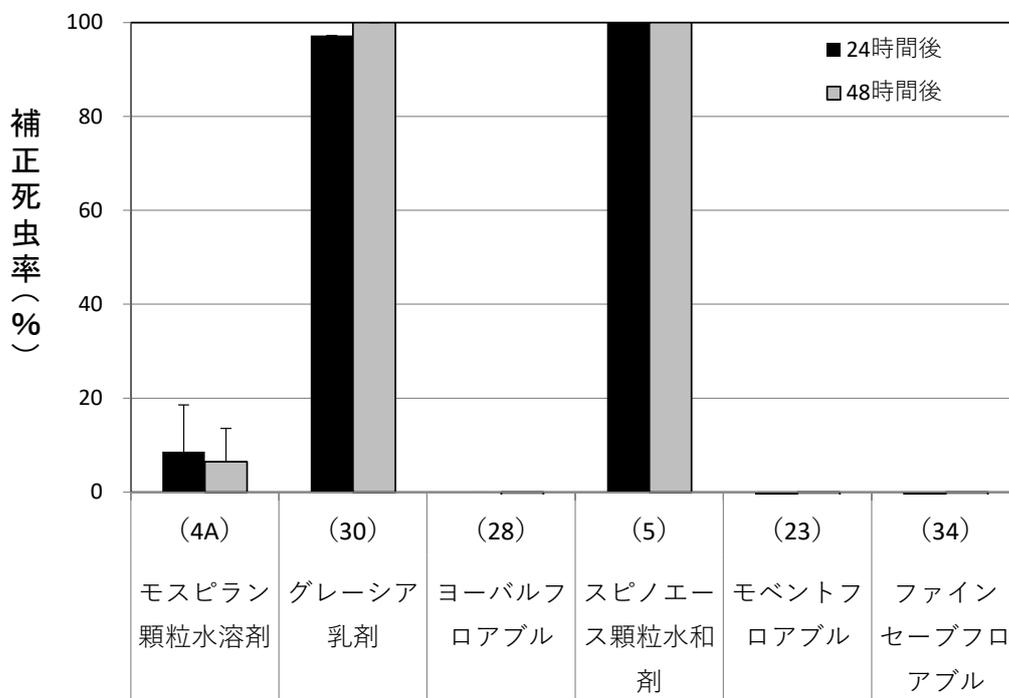


図 2 イチゴのヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定結果（Y市）